

日本キリスト教会 大阪北教会
2018年3月4(日) 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ルカによる福音書22章31節～34節

31「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。32しかし、わたしはあなたのために、信仰がなくならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」33するとシモンは、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と言った。34イエスは言われた。「ペトロ、言うておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。」

説教 『立ち直ったら兄弟たちを力づけなさい!』

◆今日の聖書の箇所には「ペトロの裏切り」のことが記されています。「裏切り行為」ほど、人を傷つけ、人の心にダメージを与えるものはありません。この箇所を読みながら、もう50年以上も前のことですが、私がまだ心齋橋の会社に勤めていた頃の事を思い出しました。部署は違ったのですが、同僚の先輩で、とても気立ての良い人がいました。ところがある日、その人の顔から笑みが消えたのです。わたしはその後、転勤、退職したのですが、数年後、その人が亡くなったことを聞きました。後で知ったことですが、その顔から笑いが消え、亡くなったのも、親友と思っていた人に裏切られたことが原因だったということでした。

◆31節で、イエス様はペトロにこう言われます。「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた」と。「サタン」つまり「悪魔」の誘惑を受けることを予告されたのです。するとペトロは、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」ときっぱり言います。シモン・ペトロは主イエス・キリストの12弟子の筆頭で、真っ直ぐな性格、嘘、偽りのない人だと言ってよいでしょう。

◆彼がイエス様に出会い、従った時のことは、本福音書の5章に記されています。ガリラヤ湖で漁師をしていた彼は、イエス様から「これからは人間を取る漁師になるのだ」と招かれた時、イエス様の人格と威厳に捕えられ、すべてを捨てて、イエス様に従ったのでした。そしてイエス様に従って数年、この方に従って間違いはなかったと思っていた矢先、イエス様から、「ペトロ、言うておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう」と言われます。ペトロは悲しみを覚え、慄然としたのではないのでしょうか。

◆しかし「魔が差す」という言葉があるように、人は、自分の不名誉になることや、自分の命にかかわることになると、そんなことは絶対にないと誓っていても、あっけなく前言を翻して、裏切ることさえしてしまうのです。正に、魔が差すというか、魔の手が伸びたのです。

人生には思いがけないことが起ります。私たちは聖書を通して知っているように、イエス様の予言通り、ペテロは、「その人を知らず」と三度、主イエス様との関係を否認したのです。

◆先日もブラジルの教会の話をしました。この群の信仰というか、モットーは、「聖書にある通り生きる」ということです。実際に、聖書にある通り、主の御声を聞くと即、その御声に

従って、世界のどこへでも伝道に出かけて行きます。その誠実さには嘘がありません。また「聖書にある通り」「病のいやし」もこの群においては日常的に起こります。そのような様子を何度も聞きしましたし、実際見もしました。しかし、その確信が崩されるようなことが起こりました。群れの皆から愛されていた一人の女子青年が、思いがけない事故で命を失ったのです。この女子青年には私も実際にブラジルで会いました。実にチャーミングな20代の姉妹でした。しかし、奇跡は起こらず、彼女は事故で命を亡くしたのです。

◆本当に、私たちの人生には思いがけないことが起ります。この事故によって、その教会から明るさが消えました。これは「裏切り行為」とは違うのですが、今日の聖書には、イエス様の忠実な弟子ペテロが、イエス様を裏切ることだけは、絶対にないと自他ともに認めていたのに、そのあり得ないことが実際に、事実となったのです。あり得ないことが起るのが、実人生です。そして、聖書には、そのような事が、現に記されているのです。その事をも踏まえないと、そのような事も実際に踏み越えてでなければ、真実の伝道はできないのです。

◆人生においては、試練・悪魔の誘惑は不可避な事です。何の試練もない無色透明な人生は、人生の名に値しないのではないのでしょうか。私たちの主イエス様も、荒野で40日40夜、サタンの試練・誘惑を受けられました。誘惑に陥るのは、必ずしもその人の資質が悪いからではないことは、主イエス・キリストのこの例によって実証されます。とは言うものの、「裏切り」は裏切った当の本人ばかりか、裏切られた人をも地獄の苦しみに突き落とすのです。

◆しかし32節において、イエス様は、裏切りの予告の後で、このように言っておられます。「しかし、わたしはあなたのために、信仰がなくならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」と。この主イエス様の命がけの執り成しの祈りは、何と頼もしく、有難い御言葉でしょう。これに勝るものは世にありません。これは、一切の因果応報を越えた愛、憐れみ、恵み、赦しです。このイエス様の執り成しの祈りこそ、わたしたちの究極の頼みです。

◆そしてイエス様は、「だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」と言われます。試練・誘惑の避けがたい事と、その試練・誘惑に負けた者の再起を主は信じ抜いておられるのです。使徒パウロも「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを知っている。そして希望は失望に終わることは決してない」と、自らの人生経験を踏まえて言っております(ロマ書5章4節)。極限の試練を越えて来た人だけが、今、試練の中にある人を慰めることができます。わたしたちがこの様な信仰に導き入れられていることは、何という幸いでありましょうか。

◆お祈りいたします。

主イエス・キリストの父なる神様。あなたが私達一人一人にこの掛け替えのない命、人生を賜り、たとえこの身が、自らの愚かさのゆえに呪われるべき境涯に陥ろうとも、あなたは、究極に至るまで、見守り、顧みてくださいます。感謝の言葉もありません。どうか私たちの存在が、主イエス様におけるあなたの極まりなき御愛の証しであらせてください。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン。